

島根県の地震

令和8（2026）年3月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

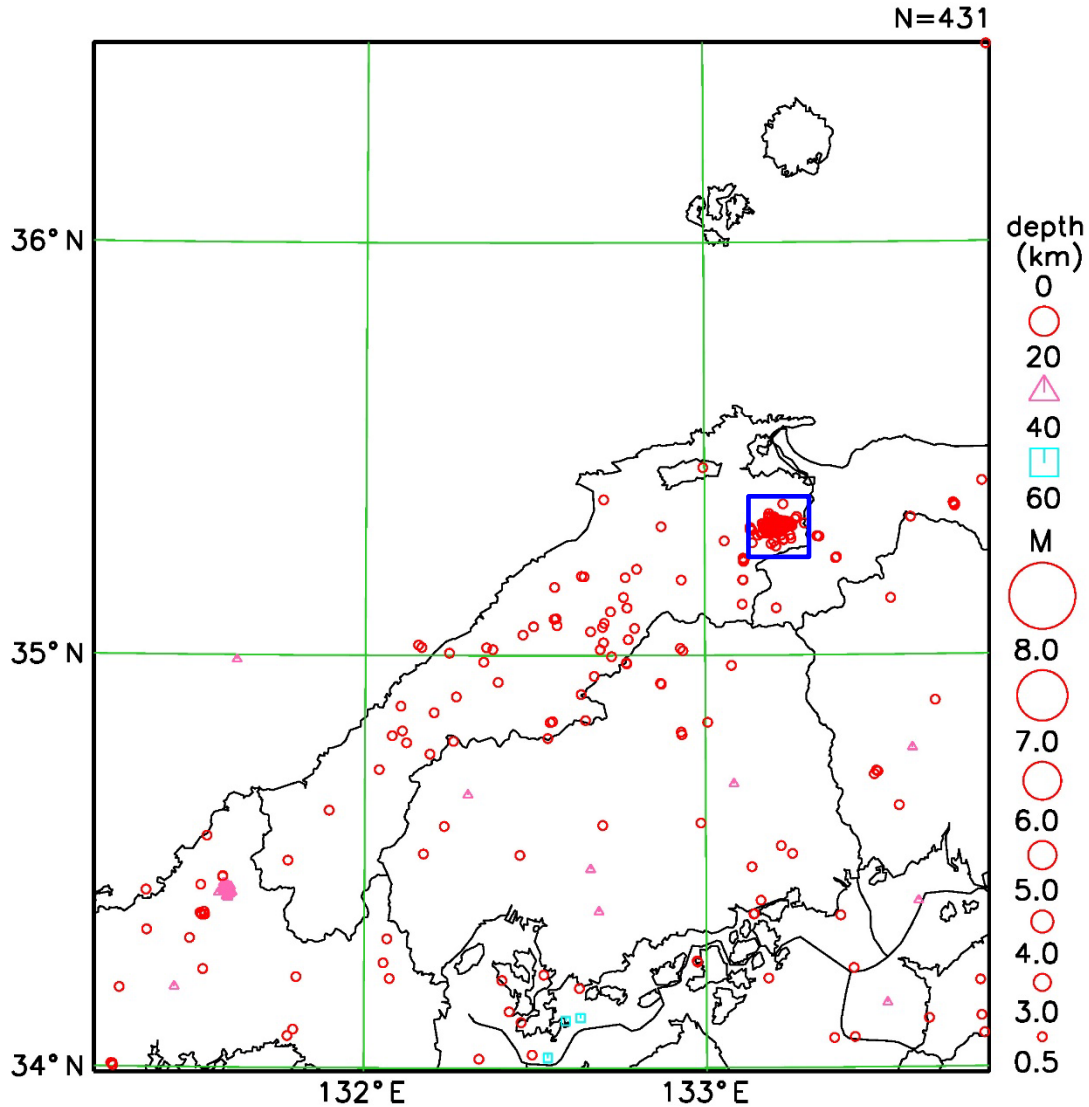
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2026年3月1日～31日

2026 03 01 00:00 -- 2026 03 31 24:00



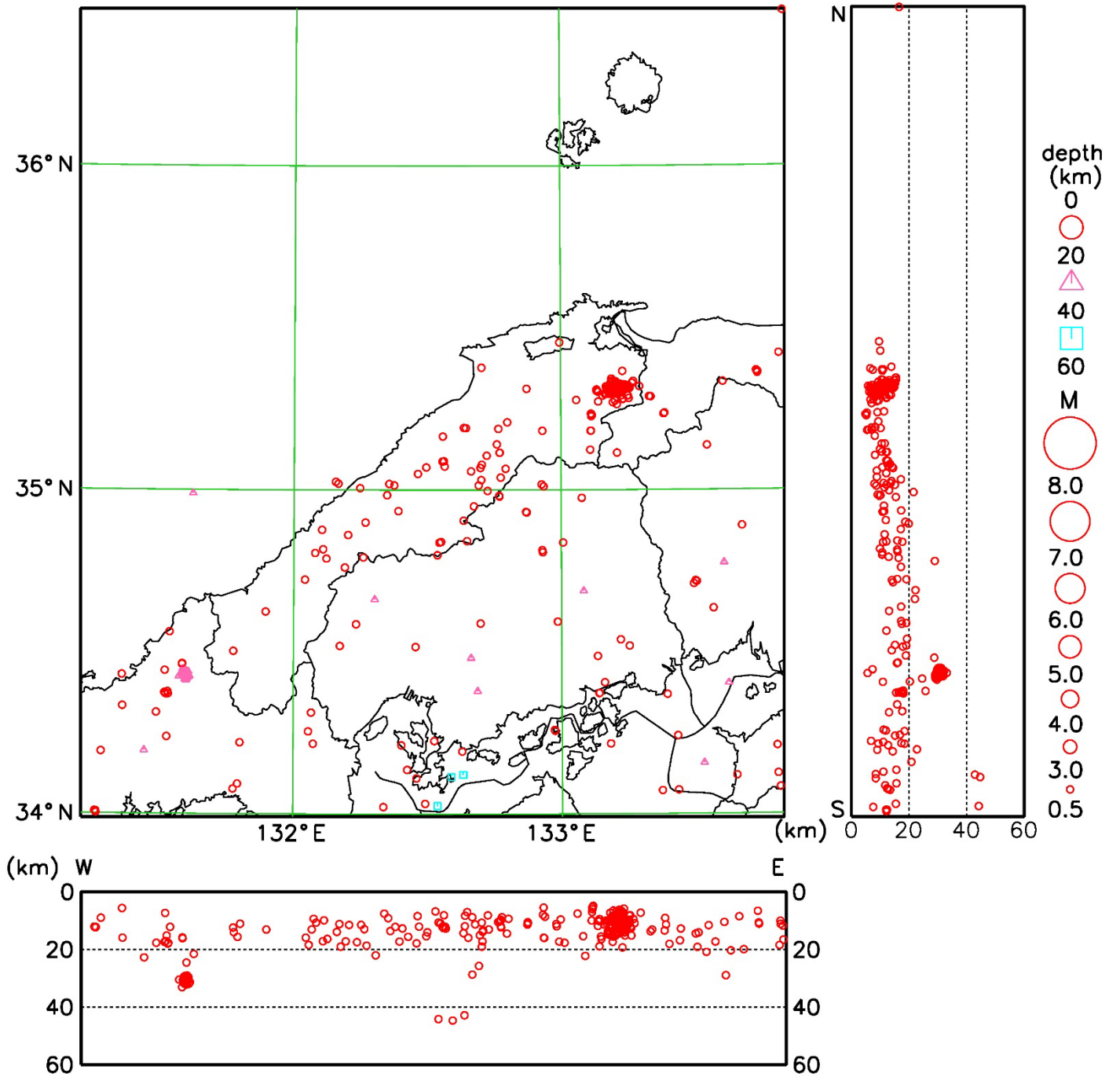
[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は431回（2月は527回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

なお、1月6日10時18分の「島根県東部の地震（M6.4、最大震度5強）」の震央付近（震央分布図青枠内）では、震度1以上の地震回数は減少してきているものの、地震発生前より地震が多い状況が続いています。

[断面图]

2026 03 01 00:00 -- 2026 03 31 24:00



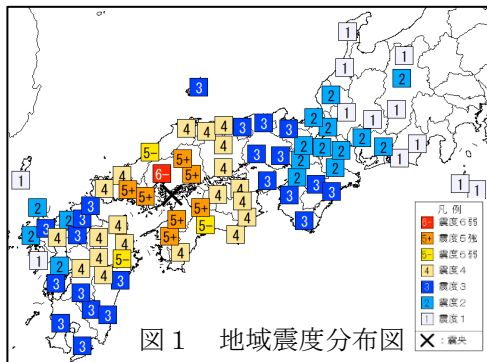
地震一口メモ

安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内の地震 ～「平成13年（2001年）芸予地震」から25年～

「平成13年（2001年）芸予地震」の発生から今年3月24日で25年が経ちました。今回は「平成13年（2001年）芸予地震」を振り返るとともに、この地震の発生タイプである「沈み込むプレート内の地震」について解説します。

○「平成13年（2001年）芸予地震」

2001年3月24日15時27分、安芸灘の深さ46kmでM（マグニチュード）6.7の地震が発生し、広島県で震度6弱を観測したほか、関東～九州地方にかけて震度5強～1を観測しました（図1）。この地震により、2名の方が亡くなったほか、負傷者288名、住家全壊70棟等の被害が発生しました（2002年9月24日、総務省消防庁による）。また2日後の3月26日には、ほぼ同じ場所を震源とする安芸灘の地震（深さ46km、M5.2）により、広島県で震度5強を観測しました。



被害写真（気象庁現地調査資料より）
左：石垣の崩れ、右：落石

○安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内の地震について

日本付近で発生する地震のタイプは、陸のプレート内の浅いところで発生する「陸域の浅い地震」、陸のプレートと海のプレートの境界で発生する「プレート境界の地震」、陸のプレートの下に沈み込む海のプレート内で発生する「沈み込むプレート内の地震」に分けられます（図2）。

「平成13年（2001年）芸予地震」は、安芸灘～伊予灘～豊後水道にかけて沈み込むフィリピン海プレート内のやや深い場所（以下、「この領域」という。）で発生した地震です。

この領域では、1905年6月2日の明治の芸予地震（M7.2）など、過去に繰り返し大地震が発生していることが知られており（図3）、中国地方にも被害をもたらしています。

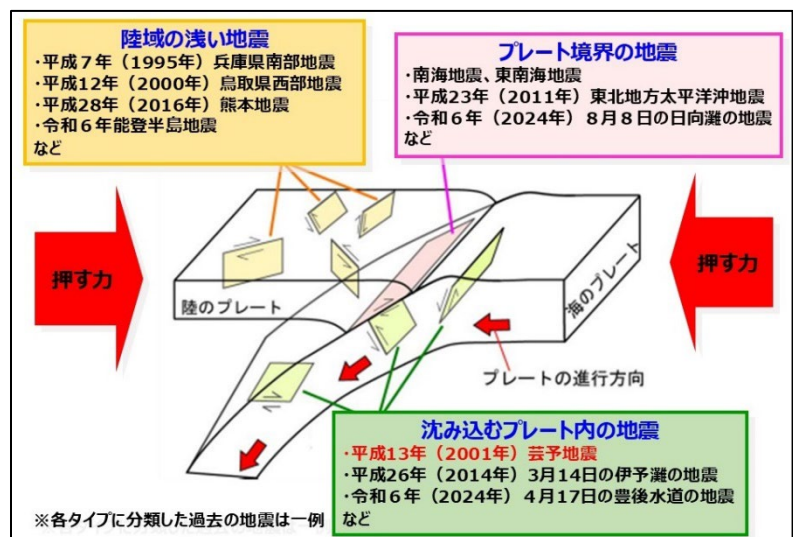


図2 日本付近で発生する地震
（気象庁ホームページから引用・一部加工）

地震調査研究推進本部では、この領域で発生する地震について、次の青枠の通り長期評価を行っています。

平均発生間隔:約 60.3 年に 1 回、地震の規模:M6.7~7.4 程度、30 年以内の地震発生確率:40%程度
 ※詳細は、地震調査研究推進本部の以下リンクを参照願います。

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/lte_summary/

(地震に関する評価>長期評価>長期評価結果一覧)

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/hyuganada_2.pdf

(地震に関する評価>長期評価>海溝型地震の長期評価)

日本付近では、前述の地震発生のタイプにより、どこでも被害を伴う地震が発生する可能性があります。各地域に被害をもたらした地震について振り返り、災害から得た教訓を学ぶことにより、突発的に発生する地震に備えておくことが大切です。

日頃からの地震への備えとして、家具の固定や避難場所・避難経路の確認、家庭における水・食料の備蓄、非常用持ち出し袋の準備などをおこなしましょう。

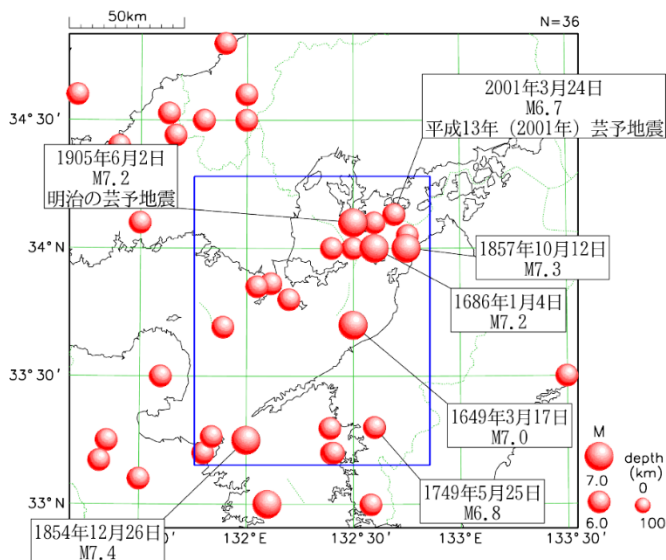


図3 震央分布図

(1600年~2025年12月31日、M \geq 6.0、深さ \leq 100km) 吹き出しを付けた地震は、地震調査研究推進本部の「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価(第二版)」により、繰り返し発生している安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震と評価された地震

日頃からの地震への備え

家具の固定 	非常用持ち出し袋の準備 	水や食料の備蓄
避難場所や避難経路の確認 	感震ブレーカーの設置 分電盤タイプ(後付け型) コンセントタイプ 	建物の耐震化

**自らの命、大切な人の命を守るために
今から準備しておきましょう**

監修: 内閣府(防災担当)、気象庁 Yahoo!ニュース
オリジナル

日頃からの備えの概要

※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。